

『源氏物語』の心を読む ～藤袴・真木柱の巻～

● 開講計画 ● (全13回／各90分)

● 受講料 ● 20,800円(教材費別)

● 定員 ● 35名

回	日付	曜日	10:30～12:00
1	9/ 2	水	玉鬘に、尚侍就任の話が持ち上がる
2	9/16	水	夕霧は、玉鬘に恋情を訴える
3	9/30	水	玉鬘の宮中出仕は、十月に決まる
4	10/ 7	水	鬘黒は、部下の柏木を使って、玉鬘に求婚をする
5	10/21	水	モダンな玉鬘が、無骨な鬘黒の妻になった
6	10/28	水	鬘黒は嫉妬する北の方をさとし、玉鬘を自邸に迎える
7	11/ 4	水	半狂乱の北の方、香をたきしめ支度する鬘黒に、香炉の灰をまぶしかける
8	11/18	水	鬘黒に見放された北の方を、父式部卿の宮が引き取る
9	12/ 2	水	北の方の姫君、真木の柱に哀しみの歌を書きつけて共に去る
10	12/16	水	鬘黒、男君二人は、式部卿の宮邸から連れて帰る
11	1/13	水	玉鬘は、新春の男踏歌に宮中へ出仕し、承香殿に局する
12	1/27	水	帝とご挨拶するが、間もなく玉鬘は、鬘黒により連れ戻される
13	2/10	水	玉鬘は、帝や源氏への未練を振り切り、鬘黒夫人として歩み始める

作品に感動するひとときを、心の糧にしましょう

はじめに、活字のテキストをわかりやすい現代語にして解説します。その後で、くずし字の原文を皆さんと一緒に大きな声で斉読します。玉鬘に相応しい婿はいないと見た源氏の意向により、十月に帝の尚侍(ないしのかみ)就任が決まります。とうとう源氏は、玉鬘が自分の娘ではないと公表し遠慮なく玉鬘に恋情をちらつかせます。さらに、玉鬘が自分の姉弟関係ではないとわかった夕霧も、藤袴によそえて思いを訴えに来ます。玉鬘がそうした男達の誰かと結婚しないで尚侍となれば、秋好む中宮や、内大臣の娘の弘徽殿女御と、帝の寵愛を競うこととなります。色々考え身の振り方に悩む玉鬘に父内大臣は、源氏に遠慮していて頼りになりません。一方姉弟と分かった柏木は、上司の鬘黒の意向を玉鬘に持ちかけました。事態は急転して、玉鬘は意に染まない鬘黒の妻として鬘黒邸に迎えられます。その結果、嫉妬して半狂乱になった鬘黒の北の方は娘とともに実家の式部卿の宮家に引き取られます。本当は源氏に惹かれていた玉鬘でしたが、気のすまない鬘黒との結婚生活にも徐々に慣れはじめて男子を出産します。

講師

本学名誉教授

うめの
梅野 きみ子

テキスト・教材

初回教室にてテキストを販売します。お持ちでない方は、講座申込み時に注文してください。テキスト以外に、他の本の持込み可。

① 宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 藤袴』

迫徹朗校注 新典社 578円+税

③ 仮名変体集 編者 伊地知鐵男 新典社 350円+税

④ 新潮日本古典集成『源氏物語 四』

校注者 石井・清水 新潮社 3,888円+税

② 宮内庁書陵部蔵青表紙本『源氏物語 真木柱』

今井源衛校注 新典社 1,050円+税

※①②は必須、③④は任意 ※2020年1月現在